



「ふるさとレスキュー」取組開始！！ 第1号「舞鶴市岡田中ふるさとレスキュー」

京都府では、消防署から遠隔地の中山間地において、消防団員を中心に地域の救助・救護の活動力を高めることを狙いとして、今年度から「ふるさとレスキュー」に取り組んでいます。今回、府内第1号として『岡田中ふるさとレスキュー』がスタートしました！

今回のニュースレターでは、10月27日（土）舞鶴市岡田中基幹集落センターで行われた『岡田中ふるさとレスキュー』スタート式の様子をお届けします！



スタート式の様子



除幕式の様子

舞鶴市岡田中消防団 霜尾団長「ふるさとレスキュー」開始にかける想い



岡田中消防団
霜尾 政幸 団長

岡田中地区は、少子高齢化と市内中心部より遠隔地に位置するなど、過疎化に拍車をかけている現況にあります。このような中、記憶に今も残る平成16年の台風23号の襲来は未曾有の被害と尊い命まで奪うなど「安心と安全」に対する意識を強固にしてきました。

今日の災害は地域住民の想定を超えた事象が発生するなど、新たな取り組みが求められるとともに、我々に対する期待も高まっているところであり、このたび、関係機関のご指導を得て「ふるさとレスキュー」を設立する運びとなりました。

平成16年の大災害を機に各地区に「自主防災組織」を結成し、様々な活動を展開してきましたが、このふるさとレスキューのスタートを「災害に強いふるさと」の始まりと位置づけ、更なる地域防災活動に取り組んでいきたいと考えています。

スタート式後の救急講習の様子



快晴の下、霜尾団長をはじめとした岡田中消防団員や自主防災組織のふるさとレスキューメンバーでスタート式が行われました。

霜尾団長からは岡田中地域への熱い想いが語られ、小山府消防協会舞鶴市支部長をはじめ、府議、市議の方々からも応援の声が多く寄せられていました。

その後除幕式が行われ、ふるさとレスキューの目印となる本部看板が現れると、メンバーの方々はなごやかながらも引き締まった表情で看板を見つめていました。

スタート式が終わると、日本赤十字社による救急講習が行われ、ふるさとレスキューで配備されることとなったAEDの使い方をはじめ、緊急の場合の初期対応を学びました。

演習も行われ、実際に近所にお住まいの方々が助けを求めている状況で、消防隊員が来るまでの間自分たちでもできることがわかった、とメンバーからの声がありました。

「ふるさとレスキュー」では、消防隊員の代わりはできませんが、情報を共有し、近くの人々が駆けつけ、苦しんでいる要救助者に声をかけ続けるだけでも、大きな意味があります。

特に消防隊員が到着するのに時間がかかる地域では、「ふるさとレスキュー」の取り組みが地域の「安心」の大きな向上へつながると思いますので、ぜひご検討ください。

「ふるさとレスキュー」とは…

「ふるさとレスキュー」とは…

消防署から遠隔地となる中山間地域で、救急隊等が到着するまでの応急手当、救助などを、消防団員を中心とした地域住民で行う取り組みです。

- 情報共有のためのメーリングリスト、連絡網の作成
- 事故や急な傷病時に現場に急行し、応急手当、保護等
- 応急救護や大規模災害時の備えとして、AEDや担架など配備
- 安全マップ作成配布
- 救急法講習や救助資機材活用訓練等を実施し、地域内啓発

舞鶴市岡田中地域（河原、下見谷、上漆原、長谷、下漆原、西方寺、由里、富室）は、登録人数を消防団員13名、他（自主防災組織、団員OBなど）45名としてスタートしました。（参考：舞鶴市岡田中消防団員80名）

お問い合わせは消防安全課（075-414-4468）まで！